

# 学 術 論 文

題目 特別支援学校の教室サインデザイン  
ー環境とコミュニケーションを明るくするチアサインー

氏名 工 藤 真 生

平成 20 年度入学 学籍番号 08GP212

弘前大学大学院 教育学研究科 修士課程 教科教育専攻 美術科教育専修

研究指導教員 佐 藤 光 輝

# 特別支援学校の教室サインデザイン

## － 環境とコミュニケーションを明るくするチアサイン (Cheer Sign) －

弘前大学大学院 教育学研究科  
教科教育専攻 美術科教育専修 デザイン分野  
ビジュアルデザイン研究室所属  
08GP212 工藤真生

### I はじめに

全国に1000校を数える特別支援学校において、校内サイン計画は発展しておらず、まだまだ例を見ない。また、普通学校を含めた小中高等学校において校内サインが設置されている場合であっても、トイレや職員室など、一般の来客向けのサインが表示しているだけであり、そこで学校生活を送る学生向けに、全ての教室にサインが表示している学校は少ない。青森県内には20校の特別支援学校があるが、校内サイン計画は実践されていないのが現状である。

都内でも有名な大型特別支援学校、東京都立あきる野学園特別支援学校は生徒数およそ300人。知的障害と肢体不自由教育の併置教育を行っている小・中・高一貫校である。教材研究に熱心な学校で、生徒一人ひとりに合わせた特別支援教育が行われている。しかし校内サインに関しては、サインが設置されてある教室とそうでない教室が存在し、サインの形状や色彩、大きさ、設置方法が不統一であった。また、校内の見取り図にはサインが表示されてあるにも関わらず、実際に教室に掲示されていないという状況も見られた。このような代表的な特別支援学校であっても、校内サイン計画は実践さ

れておらず、発展途上の段階なのである。

校内環境の整理は教育現場において非常に重要な課題であり、特に特別支援学校では自閉症を含めた発達障害の生徒への適切な教育のために、校内環境の構造化が重要視されている<sup>12</sup>。サインによって校内環境を分かりやすくするだけではなく、色彩や形状、大きさ、設置方法を統一したサイン計画を行うことにより、まとまりのある校内環境を作り、サインによって最も適した教育環境を作ることが特別支援学校において急務となりつつある。

よって本研究は、特別支援学校の校内環境を構造化することを目的とする。そして機能的なだけではなく特別支援学校という環境やそこで学校生活を送る人に適合するサインを考案し、デザイン・制作・設置し、その成果を実証する。

### II 特別支援学校における校内サイン計画実施先例校

特別支援学校における校内サインを含む環境デザインは、京都府が先進地域として名を挙げており、校内環境の構造化に熱を入れている特別支援学校も見られる。

ここで、京都市立呉竹総合支援学校と京都市

立北総合支援学校の 2 校を先行例として参照する。

## 1. 京都市立呉竹総合支援学校

京都市立呉竹総合支援学校の校内サインは、京都精華大学の大学院生、中井智子さんによるデザインであった。四角い背景に濃紺に白抜き

の明確なサインは全てオリジナルであり、流線が多用され形状が美しい。また、校名にある「竹」の特徴をモチーフにした「呉竹人間」が登場するものもあり、更にオリジナリティが強調され、毎日目にする人にとって愛着が湧くものとなっている。サインの設置方法は、アクリル板に光沢シールに印刷されたサインを貼り、元々設置されていた文字表示のみのサインが設置されていた場所に同じように突出形式で設置出来るようになっていた。また、アクリル板は角をとり、落下した時に少しでも安全が確保出来るように配慮されている。



京都市立呉竹総合支援学校の教室サイン

## 2. 京都市立北総合支援学校

京都市立北総合支援学校は、訪問時にはまだ建設されて 2 年目の新校舎であった。サインは校舎建設と同様に建設会社がサインも併せて

デザインしたものであった。各階ごとに二色ずつカラーを決め色分けし、サインからカーテン、本棚、教室の扉に至るまで 2 色で統一されていた。サインはオリジナルも従来のサインも併用し、大きさの変化や連続性を用いて楽しさが引き立つものとなっていた。サインの設置方法は、カッティングシールで直接壁やドア、掲示型のプレートに貼る方法をとっており、突出がなく校舎に自然に馴染むものとなっていた。



京都市立北総合支援学校の校内サイン

二校とも、サインを設置することによって、校内が整理されていて見た目に分かりやすく美しかった。また、統一感のある形状や色彩、大きさ、設置方法であるため視覚的に疲労感がなく、ストレスを感じることなく情報を認知することが出来た。そして、この二校はサインだけでなく、その他の校内環境も整理されていた。特別支援学校は生徒一人ひとりに合った教育を掲げ<sup>3</sup>、普通学校ではクラス全体での生徒観をもとに指導案を制作するのに対し、個々の生徒観のもと個別の指導案を作成する。そのため、普通学校に比べて教材の数が桁外れに多い。運動会や学芸会などの行事があると更にその数は増える。そのため、廊下の半分以上を教材が占領している光景も特別支援学校ではよく見

られる。

しかし、この二校においてはそのようなことがなかった。呉竹環境デザインプロジェクトに携わり、訪問した時は京都教育大学大学院に在籍されていた呉竹総合支援学校教員の潮田真一先生にお聞きしたところ、京都市立呉竹総合支援学校では、校内サインと合わせて校内環境の構造化にも積極的に取り組んでいるとのことだった。京都市立北総合支援学校も、学校建設計画と同時にサイン計画と合わせて、校内の色彩計画を含めた環境デザインを行っていた。この二校はサインと同時に、校内環境構造化を行った例だが、校内サインを設置することによって、校内環境全体にも目が向き、結果的にサインを基準とした教育に最適な環境に整理されていくということも考えられるのではないか。実際に二校とも、毎年環境デザイン担当のグループを組み、生徒や教師の声を反映させ、いろいろな視点や意見を取り入れながら、サインの調整及び校内環境の構造を更新している。そうすることによって、より現場に適合した校内環境を作ることが出来るという。このような先例による特別支援学校における校内環境の進展からも、特別支援学校の校内サイン計画は発展させねばならない。

### Ⅲ 青森県立青森第一高等養護学校

#### 1. 依頼とニーズ

2008年4月、青森県立青森第一高等養護学校から弘前大学教育学部ビジュアルデザイン研究室に校内サイン制作に関する依頼があった。青森第一高等養護学校は元々、肢体不自由

教育専門の特別支援学校であったが、現在は知的障害教育も併せた事実上併置教育を行っている生徒数およそ45名の学校である。2006年6月に改正された改正学校教育法によって、2007年3月31日まで「盲学校」「聾学校」「養護学校」に区分されていた制度は、2007年4月1日から「特別支援学校」に一本化された。この名称の変更は、各学校間の機能的差異にもとづく区分を名目上撤廃するものである。そこで各特別支援学校においては、文部科学大臣の定めるところにより、視覚障害者・聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者・病弱者（身体虚弱者を含む）に対する教育のうち、当該学校が行うものを明らかにするものとされている<sup>4</sup>。またこれらの教育は、障害の種類によらず一人一人の特別な教育的ニーズに応じていくという特別支援教育の理念に基づきおこなわれるとされる。

このような教育制度の変更により、青森第一高等養護学校においても肢体不自由教育を専門としながら、より多くの教育的ニーズに対応するため発達障害をもつ生徒の受け入れが加速された<sup>5</sup>のである。自閉症及び発達障害をもつ児者は、耳で聞くよりも眼で見る方が認識しやすいという視覚の優位性がある<sup>6</sup>。このため、自閉症児者に意思伝達する時は紙に書いて見せると効果があるとされる。有名なものにTEACCH（Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped CHildren）プログラムのコミュニケーションに関する項目が挙げられる。その方が、子どもが絵や図を使って相手に意志表示をし、更に絵から言葉を覚えるという。更にそのようなコミ



コミュニケーションを積み重ねることによって、教員や保護者は子どもの気持ちが理解出来るようになる。このようなことから、青森第一高等養護学校においても文字表記のみの校内サインの改善が指摘されるようになった。

青森第一高等養護学校は校内サイン制作の目的として以下の3つを挙げ、校内環境を明るく楽しく分かりやすいものにしたいと強く希望していた。

①校内表示をグラフィック化することにより直感的に教室のイメージが出来るようになる。

②デザイン的に統一感のある表示を作成することによって、校内環境がより楽しく、明るいものになる。

③教室のイメージを記号化することによって授業で表示の活用が可能になる。

筆者は、助言者並びに、実際のサイン制作としての役割でこの計画に関わる機会が設けられたのである。

## 2. 現状の校内環境

校内サイン制作に関わるにあたって、まず初めに青森第一高等養護学校の校内環境の視察に赴いた。校舎は肢体不自由の生徒に出来るだけ負担が少ないように、一階建てで段差がある箇所には必ずスロープが付いている。白い壁と通路に赤い手すりで校内の色彩は統一され、車椅子を利用しても容易にすれ違ふことが出来るように廊下の幅が通常学校より広く造られている。色彩においても構造においても刺激の少ない、機能的な校内環境と言えるだろう。

また、青森第一高等養護学校がある地域は、

周りが田畑の緑に囲まれ、騒音がなく静かである。自閉症やADHDなど、刺激の少ない環境での教育が望ましいとされている障害をもつ生徒に最適の校内環境と言える。実際にそのような障害の子供をもつ保護者に変好評であるとのことであった。

表示に関しては、元々知的に障害のない肢体不自由の生徒専門の学校であったため、校内における各教室のサインは全て白い背景に黒い漢字で表示されていて、グラフィック(絵文字)は施されていない。また場所によっては、文字や背景の板が大変小さく、車椅子に乗っている生徒が多いのだが、直立している人でさえサインから少し離れると全く認識が出来ないものもある。つまり、現状のサインは見る側を考慮して作られていない箇所があり、認識しにくいという問題点がある。

全体的に校内環境を見て、大きく分けて以下の3つの印象を受けた。

①病院のような内装

②機能的で冷たい印象

③暗い

病院のような機能的かつ極力刺激の少ない整理された環境であるため、生活感をあまり感じない冷たい印象を受ける傾向があり、一階建ての造りのため光が差し込みにくく、通常の学校よりも暗い印象を受けた。

## 3. 特別支援学校における校内サイン制作意義

特別支援学校における校内サインの機能は、従来のサインの様に、サインが設置されているその地点のみで特定の情報を与えることだけ

にとどまらない。特別支援学校における校内サインの役割について、筆者の考えを以下にまとめた。

### (1) コミュニケーションカードとして

障害の種類によっては言語でのコミュニケーションがはかれない生徒もいる。そのような生徒との場合現場の教員は、その生徒と積み重ねた時間の中で得たちょっとした表情や仕草が意図する意味を手がかりにコミュニケーションをとる。そのようなコミュニケーションも重要ではあるが、例えばトイレに行きたいなどの緊急を要する場合は、出来るだけ早く明確に情報を相手に伝えることが必要である。サインはこのような意思表示にも、例えばトイレに行きたい場合はトイレのサインのカードを見せるなどしてより早く的確に情報を相手に伝えることが出来る。

しかし、ここでサインの内容(グラフィック)が問題になる。従来のスタンダードなサインはシンプルなもの主流となっている。しかし、あまりにもシンプルでミニマムなものは、無駄がなく洗練されているため一見冷たい印象を受ける傾向がある。学校での先生と生徒との関係は、生徒のニーズを機械的に満たすだけのものではない。意思表示という行動、もっと大きく言えば自己表現は心理的負担が大きいものである。その時に使用するコミュニケーションカードのサインが、従来のようなものであることで、少なからず冷たい印象や圧迫感を受け、生徒の気持ちが後ろ向きになり、恥ずかしながらも先生に遠慮して渋々見せる、あるいは恥ずかしいから見せないということは避けたい。生

徒が笑顔で前向きに「これがしたいんだ」という意思を伝えるためにも、サインはデザイナーや専門家にしか理解されないような、ミニマムな美しさを持つシンプルで冷たい印象を受けるものでは今回のケースとはフィットしない。

### (2) 授業移行段階の視覚的同動機付け

授業への移行段階で「次はこの教室に行くよ。(授業など)」というように先生は情報伝達の手段として、生徒にその教室の写真をラミネートしたカードやイラスト化したものを見せる。しかし、教育現場ではその教室によってカードが写真であったり、イラストであったりと情報ツールが混在している状況も見られる。また、写真や多色のイラストは情報量が多いために認知しにくいという問題点もある。そのため、色彩や形状が統一されたサインを情報ツールとして使用すれば、この問題をクリアすることが出来る。

また、生徒にとって教室のサインを先生から提示された時、それは「この教室での授業に行く」という情報伝達になる。そのため、「教室のサイン＝授業、教室のサイン＝楽しく、魅力がある、授業＝楽しいもの、魅力があるもの」として受け入れられれば生徒にとってなお良い。このような先生と生徒との情報伝達ツールとしてもサインは使われる。そのため、従来のシンプルで冷たい印象を受ける心が張りつめるようなサインではなく、楽しく魅力のあるサインを制作する必要がある。

### (3) 会話のきっかけとしてのサイン

障害や持病の状態によっては行動を極限ま

で制限される生徒もいる。彼らにとって学校は生活の中心であり、学校に楽しみや充実感を求めて登校している生徒もいる。先生や他の生徒とのコミュニケーションはそれらを得ることが出来る重要な役割を持っている。その中で、サインがコミュニケーションのきっかけになるような、楽しさや魅力を感じられるものであれば学校生活がより潤いのあるものになるのではないか。特別支援学校は普通学校と違って生活の要素が多い。その点、病院と共通する箇所がある。

#### (4) 特殊な教室のサイン制作

特別支援学校には普通学校には見られない特殊な教室がある。青森第一高等養護学校の例を挙げると、言語聴能室、上下肢訓練室、ゆったり部屋などがある。また、他の特別支援学校においても、言語訓練室、陶工室、自立活動室、紙工房などがあった。このような特殊な教室のサインは前例がないため、新たに制作する必要がある。

##### ・言語聴能室

暗い部屋の中で光や音の刺激を楽しむ教室であり、室内にミラーボールが設置している。もともとは言語や聴覚について機能を調べたり、訓練をしたりすることを目的とした教室だが、そういったことは学校よりも医療機関で行われるため、実際には重度の生徒と光や音を活用してやりとりをしたり、リラックスしたりする授業に使われる。真っ暗で防音も効く部屋なので、光や音の刺激に対してより集中することができる。

##### ・上下肢訓練室

肢体不自由の生徒の身体機能の訓練に使用する教室である。室内にはトランポリンやブランコ、マットが設置され、これらを使用して体に筋肉をつける運動をする。他にも重度の障害をもつ生徒のレクリエーションにも利用されている。

##### ・ゆったり部屋

主に教育相談室として使用されているが、昼休みには生徒の心や体を休める部屋として開放している。主に生徒達の娯楽のために使用されている。発達障害児者にはCDをかけて音楽を聴くことが好きな人が多いのだが、休み時間にはこの部屋でCDを聞いたり、本を読んだりすることが出来る。他にもソファに横になったり、トランプを楽しんだりという生徒もいる。

#### IV チアサイン Cheer Sign

従来のサインは情報認知のために視覚的伝達機能として、一見しただけで見る者との関係は終わるのだが、特別支援学校の場合は単なる情報伝達ツールとしての機能だけではなく、生徒一人ひとりの学校生活と密接な関係を持つ、重要な役割を果たすものであると言える。また、校内環境を明るく楽しく分かりやすいものにしたいという依頼校の強い希望から、それと同様に生徒同士や生徒と先生とのコミュニケーションにも同様に同じような効果があればなお良い。そのため特別支援学校だからこそ出来る、機能的なだけではなくかわいらしく親しみやすく、見る人が楽しい気持ちになるような独自のサインの必要性を感じた。

そこで見る側に寄り添い励まし元気づけるようなサインを考案し、名前をチアサイン

(Cheer Sign) と命名した。cheer には応援・声援・励まし・陽気、cheer up には元気づくという意味がある。「見る人を励まし元気づけるサイン」という意味で使ってはどうか。チアサインの特徴を以下 4 項目挙げた。

①サインの形状に丸みを帯びさせる。

背景は正円とする

②オレンジに白抜きで統一する

明るい色彩を使用する

③「キラキラ」「ポンポン」などの効果線を加えることによりサインに動きをつける

④顔（表情）をつける。（サインのキャラクター化、見る側に話し掛ける働き）

ここで、チアサインの①～④までの特徴について詳しく説明したいと思う。

①サインの形状に丸みを帯びさせる。

背景は正円とする

自然物は丸みを帯びた形状をしているものが多く、人間の形もそうである。そのため、人間は丸みを帯びたものを見たり触ったりすると落ち着くという心理的作用がある。背景も正円にすることで、サイン全体で丸みを強調する。更に、サインが実際に校内に設置された場合の校内環境全体としての印象も考えてデザインした。正円がそれぞれの教室前に設置されることによって、通路に正円が浮かんでいるような楽しい空間を演出することが出来る。ポンポンポンと音が聞こえてくるようなリズム感が校内に生まれ視覚的に楽しい効果を齎すことが

出来ると思った。

②オレンジに白抜きで統一する

明るい色彩を使用する

オレンジ色を選んだ理由としてカラーイメージスケールにおけるオレンジ色のイメージ語がある。オレンジ色のイメージ語としては「楽しい」「活気のある」「元気な」「愉快的」などがあり、依頼校の「校内環境を明るく楽しく分かりやすいものにしたい」というニーズの一部をカラーによって解決出来ると思った。また、弱視の人にとっては白い背景だと白色がまぶしく見えてしまうため、暗い色の背景にサインを白抜きするという白黒反転で表現するため、オレンジ色を白抜きするという表現方法を選択した。

しかし、制作して様々な方に意見を頂けためにサインデザインを見て頂いた中で、サインや色彩計画を手掛ける株式会社アイグラフ 猪狩和造氏に、オレンジ色に白抜きのサインで本当に妥当なのかというご指摘を受けた。確かにオレンジ色は色弱をもつ人や高齢者には認識しにくく、そのような方への配慮を考えた場合一般的に不適切なカラーではある。しかし、それでは黒・濃紺・濃緑などの低明度低彩度の色彩に白抜きの視認性の確保を最優先としたサインしか生まれない。更に、彩度の低い色は落ち着いた印象を受けるが見る人が沈み込んだ気持ちにもなりかねない。

依頼校の希望は校内環境を明るく楽しく分かりやすいものにしたいということである。分かりやすさは確保されるが、黒・濃紺・濃緑で明るさや楽しさを表現するのは難しい。また、青森第一高等養護学校の校内環境視察時の印

象が①病院のような内装②機能的で冷たい印象③暗い、であった。このような機能的な校内環境に更に視認性の確保を最優先した従来のサインに倣った機能的なサインを設置することが果たして、そこで学校生活を送る生徒の皆さんや先生に寄り添ったサイン計画を実践したことになるのだろうか。

青森第一高等養護学校の校内環境は色彩的な刺激が少なく、白い壁と通路と赤い手すりですべての色彩は全て統一されている。オレンジ色と言っても低明度の落ち着いたオレンジ色を使用することで白抜きにした場合、白色との明度差は高くなり、視認性を確保することは可能である。このようなことから、一般的な常識内での優先順位より、現場の最優先ニーズを第一と考え色彩を決定した。

### ③「キラキラ」「ポンポン」などの効果線を加えることによりサインに動きをつける

「キラキラ」「ポンポン」などの効果線は、よく漫画で目にすることが出来る。効果線があることによって登場人物の感情や雰囲気を一層引き立てることが出来る。効果線を多用した画家にキースヘリングが挙げられる。彼の作品には、モチーフが強調されまるで動いているような効果線が盛んに描かれている。効果線があることによってモチーフの存在感が高まり、視覚的に動きを感じることによって楽しい雰囲気が見る側に伝わってくる。

このように効果線がサインに用いられる傾向は日本文化にも多く見られる。効果線が多用されるものと言えば先に述べた漫画は勿論だが、日本発祥のものとしてプリントクラブを挙

げることが出来る。通称プリクラは自分の顔や姿を写真で撮影して、シールに印刷された写真を得る機械の商品名だが、日本の若い世代が撮影したプリクラを見ると撮影と同じくらいデコレーションに力を入れているように思える。ペンタブレットで自由に落書きをしたり、フレーム、スタンプなどの模様を入れるなどして遊びの要素を加えている。ペンタブレットの搭載は1997年頃からだが、それまでは好みのフレームを選んで写真をとることがプリクラの主流であった。しかし、ペンタブレットの搭載によりそれ以前より更にデコレーションの幅が広がり、女子中高生や若い世代を中心に大ブームとなった。デコレーションのスタンプには必ず「キラキラ」や動きを表す効果線が搭載されている。このようなプリクラにおいて効果線を多用する習性も日本独自の文化と言うことが出来るであろう。そのため、サインに効果線を加えることにより、視覚的な楽しさを持つ日本独自の文化を反映したサインが出来ると考えた。

### ④顔（表情）をつける。（サインのキャラクター化、見る側に話し掛ける働き）

従来のサインには、目や口など表情がわかるような情報は盛り込まれていない。例えばトイレのサインで言うと、「男女」を形状や色で表したものだが、顔に目や口などの表情の情報は無い。これは、第一に「男女」という情報を見る側に受け取ってもらうため、それ以外の余計な情報を盛り込まないという視認性の確保のための手段であると考えることが出来る。第一高等養護学校の先生から、生徒の多くが教材な

どの物に目や口など表情と認識出来るものがあることによって、図像に注目してくれるという特性を聞くことが出来た。そこで表情がついていることで見る側に話しかけ、寄り添うようなサインが出来るのではないかと考えた。ただし、全てのサインに顔がついているのは全体的に見た時、落ち着きのない印象になってしまう。そのため、共通教室などに使用する教室を絞った。

## V チアサインの先行例と考えられるサイン

### 1. 愛宕グリーンパークのサイン

愛宕グリーンヒルズはツイン高層ビルの愛宕グリーンヒルズ MORI タワー（オフィス棟）と愛宕グリーンヒルズフォレストタワー（住居棟）の 2 棟で構成され、森ビルが管理している。愛宕山の自然、伝統、文化との融合をコンセプトとし、曹洞宗青松寺を挟むように建設された。その二つのビルの間に位置するのが愛宕グリーンパークである。主にオフィスで働く人の休憩場や居住者の散歩コースとして使われている。そこにグラフィックデザイナーの原研哉氏がデザインしたサインが使われている。その中から、「ペット進入禁止」と、庭園内の植物を「食べてみよう」という子供への誘導サインをここでは取り上げる。

「ペット進入禁止」のサインは、通常のペットを表すサインとは異なり丸みがある形状となっている。そのため、禁止を訴えているサインであるのにも関わらず、圧迫感がなくかわいらしさを感じるものとなっている。かわいらしさを感じることによって禁止のサインもスト

レスなく受け入れることが出来るのではないか。

次に、庭園内の植物を「食べてみよう」という子供への誘導サインは、サインとして珍しいといえる。クマのようなキャラクターが何かを食べて口を動かしている様子がサイン化されたものになっているのだが、その口の部分に動きを表す効果線が付けられている。そのため、動きを感じるサインになっている。この効果線があることによって見た目にも、気分的にも楽しさを感じるものとなっている。また、効果線があると、その部分に自然と目が向き、結果視認性を高めるサインとなっているとも言える。また、このクマの形状も「ペット進入禁止」のサインと同じく丸みがあり、かわいらしさを感じるものになっている。



「ペット進入禁止」と「食べてみよう」

### 2. ファーストキャビンのサイン

GOOD DESIGN 2009 社会領域にエントリーした株式会社ファーストキャビンの商品で「FRP 製組立式宿泊ユニット ファーストキャビン」というものがある。これは「コンパクト&ラグジュアリー」をコンセプトに飛行機のファーストクラスをイメージした全く新しい

カテゴリーのホテルのキャビン（客室）として開発されたものである。この商品を表すサインが飛行機の周りに「キラキラ（効果線）」が配置されたものである。商品コンセプトである、飛行機のファーストクラスのイメージとラグジュアリー感が効果線によって表されている。効果線がない場合よりもかわいらしさや親近感を感じる冷たさのないサインとすることが出来る。



「ファーストキャビン」と「携帯電話サイン」

### 3. 携帯電話の注意サイン（パリ）

フランスで使われている携帯電話に関するサインで顔がついているものがある。「列車のコンパートメントの中では使用をご遠慮下さい」のサインには眠っている顔の電話が、廊下側と入り口近くには笑顔で許可を示す電話がサインデザインしてある。携帯電話禁止、優先席、リュックサック注意などのマナーを説くサインの意味が薄まりかけている中で、ユーモアでマナーを説くことで視認性を高めたサインであると言えるのではないか。

先例から、効果線はそのものの持つ雰囲気や動きを強調し、見る側に楽しい気分を与えるのに有効であるといえるのではないだろうか。更

に、サインに効果線があることによってサイン自体の存在感を高め、「視認性の確保」というサインの必須条件を従来のサインとは異なるアプローチで満たすことが出来る。また、表情をつけたサインも同じようなことが言える。表情をつけることによって存在感が高まり、視認性を確保するだけではなく、従来のサインにはないかわいらしさを見る側が感じることでよりサインに愛着が湧くのではないか。サインとは情報提供であるとともに、命令のようなある種の圧迫感をもつものもある。しかし、サインにかわいらしさや愛着を感じることで、拒絶してしまいたくなるような情報も、抵抗なく受け入れることが出来るものになるのではないか。このようなことから、チアサインの要素をもつサインは、サインとしての新たな可能性を持つものであると言える。

しかし、先例に挙げたようなサインはまだごく一部でしか使われておらず、学校は勿論特別支援学校には設置されている例はない。見る側の気分を高め、かわいらしさ・愛着を感じるサインである上に、「視認性の確保」という必須条件をもクリアすることが出来るチアサインは、「学校を明るく楽しく分かりやすくしたいという」ニーズをもつ特別支援学校により適合するサインとすることが出来る。そこで、特徴に沿ってチアサインを制作し、青森県立第一高等養護学校に設置したいと考えた。

## VI チアサインによる教室サインデザイン制作

### 1. ①サインの形状に丸みを帯びさせる

## 背景は正円とする

### 保健室のサインデザイン

ハートでメンタルケアを、十字で救護を表し、全体的に保健室の役割を表している。ハートも十字マークも従来は角があるシャープな印象を与える部分がある形状だが、チアサインの特徴に沿い、全て丸みを帯びたものにした。そうすることで、「プニプニ」や「コロコロ」など見ていて音を感じるようなかわいらしさが前者と比べて表現出来た。



「保健室」、「言語聴能室」、「共通教室」  
のチアサイン

## 2. ③「キラキラ」「ポンポン」などの効果線を加えることによりサインに動きをつける

### 言語聴能室のサインデザイン

この教室は先の「特殊な教室のサイン制作」にて説明したのだが、特に、肢体不自由を専門とする特別支援学校で存在するもので、普通学校にはない。この教室は暗い部屋の中で光や音の刺激を楽しむための教室で、ミラーボールがあるのが印象的であった。そのため、ミラーボ

ールをサイン化することにし、光を表す効果線「キラキラ」を盛り込んだ。

## 3. ④顔（表情）をつける（サインのキャラクター化、見る側に話し掛ける働き）

### 共通教室のサインデザイン

この教室は主に学習室として、全生徒が使う。上下それぞれにいる表情のある丸は、この教室を使用する人を表している。片方が使用していてもう片方がいない時もある、両方とも一緒に教室を使っている時もあるという共通教室の使用の動きを矢印で表した。また、矢印は生徒同士また先生と生徒とのやりとり、つまりコミュニケーションも表している。

## VII 教室サインの仮設置

### 1. 設置方法

設置方法は壁から少し離してサインを設置した。そうすることで円形のサインが校内空間に浮いているような印象を見る側に与え、サインを目にすることによってリズムや音を感じることが出来る設置が可能になると考えたからである。設置方法もチアサインの特徴である「動き」を感じることが出来るものとした。

### 2. サインデザインの修正

#### (1) 動き

チアサインの特徴として「サインに動きをつける」ことを挙げ、それを念頭に制作していたのだが、仮設置してみると動きがあまり感じられないサインもあった。そのため、効果線の数



や大きさ、グラフィックパーツの配置を再検討することとなった。

#### 変更となったサイン：理科室



#### 変更となったサイン：音楽室



#### 変更となったサイン：調理室



### (2) 大きく配置

いくつかのサインは、まとまりすぎていて寂しい印象を受けるという声が挙げられた。そのため、大きさと配置を調整することとなった。

### (3) リアル感

多くの教室は、その教室を想起することが出来るモチーフをデフォルメし、サイン化したものとなっているのだが、モチーフがもっと実物に比率が近くてもよいという声もあがった。

### (4) 生徒の実態や現場に合わせて

調理実習で泡立て器とボールを使うことが多いという実態から、その 2 つをイメージ出来るようにサインを制作したが、実際に調理室と言った場合、生徒が具体的にイメージするものが鍋や包丁だった。泡立て器やボールは調理実習で、自分で手にしているため距離が近すぎるのかもしれない。そのため自然と視線が向くのが鍋や包丁のため、イメージしやすいのかもしれない。このような生徒の意識実態から調理室のサインを鍋で再度制作した。包丁は「木工室＝のこぎり」とイメージが重複する恐れがあるため、使用しなかった。

## VIII 本設置に向けて

### 1. 9 教室の選抜

じっくり時間をかけて少しずつサインを設置していきたいという依頼校側の要望に沿い、全教室を 4 期に分け、1 年に 1 期ずつサインを設置していくという段取りを組んだ。第 1 期は全生徒の使用頻度が高い以下 9 教室にサインを設置することとした。

保健室  
体育館  
情報処理室  
音楽室

視聴覚室

調理室

木工室

美術室

言語聴能室

・絵の具がチューブから出ている様子も制作

言語聴能室

・ミラーボールの簡略化

・効果線の配置を数パターン制作

## 2. 現場の声に合わせた箇所のポイント

保健室 修正なし

体育館

・動きを感じることが出来るよう効果線を加える。特徴のある効果線のデザイン。

・バスケットボールを大きくする

・パーツの配置を変える。

情報処理室

・液晶、キーボード、マウスのパソコン3セットでサインを制作したがマウスのみで新たに制作。先に制作したサインではマウスが動いているように効果線を加えたが、他の2パーツに比べてマウスが小さいため、動きが伝わりにくい。そのため、モチーフをマウスの上に絞り、効果線も共に大きく配置することで動きを強く感じられるものとした。

音楽室

・鍵盤の長さをリアルに近づける

・音符の配置の検討

調理室

・モチーフをボールと泡立て器ではなく、鍋と湯気に変更

木工室

・のこぎりも考えたが、先に制作した金槌と釘と木材にモチーフを変更

・大きさの違う効果線を加える。

美術室

## 3. カッティングシールについて

カッティングシールははがれやすく、サインとして魅力的だからこそ手をのびたくなるからなのか、部分的にはがされていてサインとして機能していない先例を目にしていた。サイン計画はサインを設置した時点で終わるものではなく、テスト期間を経て様々な人の視点を加えながら更新を重ねるものである。そのために原案をシンプルな構造にし、誰でも組み替えられる容易さも特性として必要であろう。しかし、カッティングシールの場合、その更新作業があまりうまくいっていないように感じた。カッティングシールという学校にはあまりない専用の機械を使ってしか制作できないサインでは、サインが破損した時や形状を更新したい時に、専門業者への依頼が必要になり経費も時間もかかる。大儀なので修理や更新を避けるようになってしまい、結果としてサインが機能しない校内環境になるということもありうる。

そのため、今回は更新作業の利便性を考慮し、光沢紙に印刷したサインをスチールプレートに貼るという方法を取った。また、サインのサイズも現場での視認性を確認した上で、A4でプリント可能な直径19.5cmとした。これにより、学校にある機材で簡単に制作出来、かつ質的に劣らないサイン制作が可能となる。

## IX 本設置

2009年12月16日、青森県立青森第一高等養護学校で9教室のサイン本設置を行った。青森第一高等養護学校美術科の蒔苗先生、阿部先生、鳴海先生と筆者の4人でサイン設置作業を行った。設置する前に生徒や教職員の方々に、筆者のサインに対する考えと推薦するサインを伝えた上でサインを選んでもらった。生徒にサインを選んでもらう方法は、美術科の蒔苗先生に、生徒を対象にいくつかのサインを提示し比較をして頂き、筆者もそこに立ち会った。



教室サインデザインを選ぶ生徒達

## 1. アンケート

アンケートは質問紙法を取り、生徒用と教職員用に分けて制作した。質問項目は先例校である京都市立呉竹総合支援学校で行ったものを参考にした上で、更に本研究最大の焦点であるチアサインの有効性の有無を明らかにするために必要な項目を加えた。

生徒用は回答を選択肢の中から選ぶ質問項目を多めにし、出来るだけ多くの生徒が答えることが出来るように心掛けた。また、筆記での回答が難しい生徒もいるため、そのような場合は教職員の方が生徒に聞き取りで質問した後、

代筆して頂くよう依頼した。

更に生徒を対象にチアサインとチアサインの特徴を持たないサイン(以後非チアサインとする)の比較に関する質問項目を設けた。

方法は

- ① サインの形状に丸みを帯びさせる。  
背景は正円とする。
- ② オレンジに白抜きで統一する。  
明るい色彩を使用する。
- ③ 「キラキラ」「ポンポン」などの効果線を加えることによりサインに動きをつける。
- ③ 顔(表情)をつける。(サインのキャラクター化、見る側に話し掛ける働き)

のチアサイン4つの特徴をそれぞれ1項目とし、項目ごとにチアサインと非チアサインの2つを提示し、どちらが良いかを選択し、なぜそれを選んだのかを理由を記入してもらうというものである。

教職員用のアンケートは生徒用のアンケートを基準に記述項目の割合を多くすると共に、設置されたサインに対する印象を5段階の肯定度の中から選択するものも付け加えた。ここではサインの色や形の印象や満足度について触れている。

## 2. 質問紙法アンケート結果

青森県立第一高等養護学校は生徒数人、教職員数5が正式の人数だが、校内サインに関するアンケートはインフルエンザや出張などの関係で生徒34人教職員26人が対象となった。

### (1) 生徒

「1. 教室表示が変わっていることに気づい

ていますか。」とでは 75%強の生徒がサイン設置の変化に気づいていたことが分かった。

「2. 今の表示についてどう思いますか。」では、「ア：前の表示板まえ ひょう ばんよりよいと思う。おも」が23人「イ：前の表示板と変わらないと思う。」が6人「ウ：前の表示板の方がよいと思う。」が5人であった。新しく設置されたサインについて以前の表示板より好感を持っていることが分かった。

「3. 2.で「ア：前の表示版よりよいと思う。」と答えた方に質問です。どのようなところがよいと思いますか。」には「絵のデザインがよい」「解りやすい絵だから」「かわいい」「色がいい」「キレイでどの部屋か解りやすい」など、チアサインのコンセプトが的中した感触を得ることが出来た。

「4 特に気に入った教室の表示板があったら○をつけてください。(○は何個つけても構いません。)」では、サインが全体的に支持されている様子が伺えたが、中でも丸みが一番感じられる保健室と、効果線が用いられている音楽室と体育館が人気が高かった。

「5. 2.で「ウ：前の表示板まえ ひょう ばんのほうおもがよいと思う。」と答えた方に質問です。どのようなところが前の表示板の方がよいと思いますか。」は「2」での回答で5人「ウ：前の表示板まえ ひょう ばんのほうおもがよいと思う。」であったのだが、回答者

はいなかった。

## (2) 教職員

「1. 設置されているサインについてどう思われますか。」では、「ア：よいと思う」が21人、「イ：以前の文字表示板と変わらないと思う」は5人で、「ウ：以前の文字表示板の方がよいと思う。」は選択者がいなかった。

「2. 1.で選んだ理由をお答え下さい。」

「ア：よいと思う」

「見て楽しく、教室に入ってみたい気分になる」

「文字が読めなかったり入学したての生徒にはシンプルな(サイン)デザインがインパクトとなり、教室の移動に役立つから」

「優しい感じを受ける」

「字で書かれた表示よりも色もポップで見た目も良い」

「絵が解りやすくはっきりしているのがよい」など、生徒のアンケート結果同様、チアサインのコンセプトが的中した感触を得ることが出来た。

「イ：以前の文字表示と変わらない。」

「すでに教室が分かっているため必要ない」

「オレンジ色が見えやすいか分からない」

などの意見もあった。

「1. 特に気に入った教室の表示板があったら○をつけてください。(○は何個つけても構いません。)」でも、生徒を対象にしたケース同様、どのサインも全体的に支持される様子が伺うことが出来た。特に効果線を用いた音楽室、情報処理室のサイン、丸みを帯びた保健室、調

理室のサイン、が多くの票を集め、サインのオリジナル性に共感する様子を伺うことが出来た。

「4. その他何かご意見がございましたらご自由にご記入下さい。」

「生徒は職員室に入ってくる時緊張して入ってくるので、入る前に緊張をほぐすような職員室のサインの設置も今後楽しみにしています」

「(〇年〇組など) 絵でイメージしにくいサインも今後楽しみにしている」

という今後のサインに希望を寄せる声があった。

「文字を見えやすい位置に設置するのはどうか」

「サイズをもう一回り大きくしてはどうか」

「保健室は赤でもよいのではないか」

など、アドバイスや提案の声も聞くことが出来た。

### 3. Cheer Sign と非 Cheer Sign の比較

#### ①保健室

#### ②美術室・調理室

#### ③体育館・言語聴能室

#### ④トイレ（未設置）・共通教室（未設置）

の7ケースの比較を行った。

結果、

#### ① 保健室

34人中24人がチアサインを支持した。支持した理由としては「丸の方がインパクトがある」

「円の方が優しいから」「あったかい感じがするから」などがあった。逆に非チアサインを選んだ生徒の理由は「四角が好きだから」という

理由であった。

#### ② 美術室・調理室

チアサインのオレンジ色に白抜きされたサインと、呉竹総合支援学校で使用されていた濃紺色に白抜きのサインで2ケースを比較した。

結果、美術室は34人中18人が、調理室は34人中25人がチアサインのオレンジ色を選んでいた。理由としては

「明るい感じだから」

「青（濃紺色）だと暗い色使いになりそうな気がする」

「オレンジ色の方が見やすい」

「温かさを感じられる」

「家庭っぽい。右の色（濃紺色）は暗くてさみしい感じがする」

などがあった。

非チアサインを選んだ生徒の理由は

「（濃紺色の方が）引き締まって見えるから」

「オレンジ色より見やすいから」

であった。

#### ③言語聴能室・体育館

効果線があるチアサインと効果線がないサインで2ケース比較した。

結果、言語聴能室では34人中28人が、体育館では34人中28人がチアサインを支持した。

理由としては

「光っているように見えるから」

「キラキラ（効果線）がキレイだから」

「動きがあるように見えるから」

「バスケットボールがゴールに投げ込まれている方が（効果線がある方が）運動する所だと

認識しやすい」などであった。

#### ④ トイレ（未設置）・共通教室（未設置）

顔がついているチアサインと顔がないサインの比較を2ケース行った。

トイレでは34人中27人が、共通教室では34人中30人がチアサインを支持した。

理由としては

「かわいい顔がついているから」という声が多数あり、他には

「顔がついている方がわかりやすい」「ダブルの笑顔が素敵だから」

「先生と生徒が話し合っているように見える」などの声も聞くことが出来た。非チアサインを選んだ生徒の理由は「(顔の) 必要性を感じない」というものであった。

## X 研究のまとめ

アンケート結果から全体的な現場の声として、チアサインに満足している様子を伺うことが出来た。今回サインデザインから制作・設置・設置後の調査まで行ったが、特別支援学校における校内サインは、校内環境を整理し構造化するのに有効であることが分かった。また、特別支援学校のサイン計画を行うにあたり、コンセプトとしてチアサインという、サインに動きや可愛いらしさ、楽しさを取り入れる新しい視点を盛り込んだサインを立案した。これは、従来の不特定多数の人のための瞬時の情報認知や誘導の機能を持つ、シンプルで一見冷たい印象を受けるサインではなく、特別支援学校というコミュニケーションを特に重要視する環境、また、ある特定の人たちが学校生活を送っていく上で使用するためのサインということ

を最大限に考慮し、従来のケースとのはっきりとした差別化を図ったものである。

結果、生徒は勿論であったが、教職員の方々からもチアサインは好評を得ることが出来た。単なる筆者一人の研究としてではなく、依頼校側で予算を組み、チアサインを設置して頂いたことは、チアサインが現場に即したサインとして認められ、受け入れられたからであろう。これにより、アンケート結果も含め、特別支援学校におけるチアサインの有効性があったといえる。

しかし、全国的において普通学校は勿論、特別支援学校においても校内サインが設置され、校内環境が構造化されているケースはほとんどない。今回の研究を踏まえ、全国の特別支援学校において校内環境を明るく楽しく分かりやすくするために、筆者はチアサインを用いた校内サインの設置に今後も取り組んでいきたいと考えている。近年の教育制度変更により、普通学校を含めた教育現場において発達障害をもつ児童生徒の増加・受け入れが加速傾向にある。発達障害をもつ児童生徒には、構造化された環境の中での教育が適切とされているが、それと共に、コミュニケーションスキルの訓練を必要とするケースも多い。校内環境を明るく楽しく分かりやすく構造化し、コミュニケーションに調和するチアサインは、今後教育現場において必要となるであろう。

更に本研究は特別支援学校を対象とし、コンセプト・デザインを推敲し、「チアサイン」という見る側に寄り添い励まし元気づけるようなサインを考案した。社会的に見た時、特別支援学校の児童生徒は身体的・精神的・年齢的に、

環境によりバリアを感じる対象が多い。そこに焦点を当てたことに、チアサインはより多くの人に適用する要素を持っているのではないかと、という希望を持つことが出来ると考えられる。このような考えから、ユニバーサルサインとして貢献出来るのではないかと考えてい

る。今後の課題としては、チアサインを通して、ユニバーサルデザインの要素を含んだサインの研究を深めていきたい。そのために、障害種は勿論、言語・宗教・文化などのより多くのバリアを越えるサインの研究を行っていきたい。

#### お世話になった方・アドバイスを頂いた方

本研究を行うにあたり、たくさんの方々にお世話になった。特に指導教員である佐藤光輝先生には様々なご助言を頂戴し、研究を支えて頂いた。

皆様のご協力あってこの研究を真つ当することが出来た。お名前を記すことで感謝の意を表したい。

#### 青森県立青森第一高等養護学校

蒔苗正樹

阿部太一

鳴海文子

教職員・生徒の皆様

#### 株式会社アイグラフ

猪狩和造

#### ドーンデザイン研究室

水戸岡鋭治

#### 京都市立呉竹総合支援学校

潮田真一

#### トライポッドデザイン株式会社

中川聡

#### 京都精華大学大学院修了生

中井智子

竹橋かおり

#### 京都市立北総合支援学校

小田健司

#### 富山県立となみ養護学校

平野道子

## 参考文献

- ・ 交通エコロジー・モビリティ財団標準案内  
用図記号研究会「ひと目で分かるシンボル  
サイン」株式会社大成出版社,2001.
- ・ 西川潔「サイン計画デザインマニュアルー  
医療・福祉施設を事例としてー」株式会社  
学芸出版社,2002.
- ・ 「デザインの現場」美術出版社  
2002,19,121,p.35.  
田中直人・保志場国夫「五感を刺激する環  
境デザインーデンマークのユニバーサルデ  
ザイン事例に学ぶー」彰国社,2002.
- ・ 古川政明・武蔵博文・平野道子「ローカル  
サインとパブリックサインの接点を探るー  
知的障害児教育現場の情報バリアフリー  
戦略としての視覚サイン研究」日本サイン  
学会誌,2003,p.45-51.
- ・ 佐藤優「患者に優しい病院をめざして」九  
州大学出版会,2006
- ・ 有限会社 KAIGAN「おもしろピクトの作り  
方」株式会社誠文堂新光社,2009.
- ・ 村越愛策「世界のサインとマーク」株式会  
社世界文化社,2002.
- ・ 田中直人「ユニバーサルサインーデザイン  
の手法と実践ー」株式会社学芸出版社,2009.

## 特別支援学校における校内サイン計画実施先 例校

- ・ 京都市立呉竹総合支援学校
- ・ 京都市立北総合支援学校
- ・ 富山大学人間発達科学部附属特別支援学  
校

---

## 註

---

<sup>1</sup>西島衛治・関沢 勝一・野村 歡・佐藤 平「自  
閉症児の教育方法に対応した教育空間の分化  
の傾向と物理的空間の構造化への動向」日本  
建築学会計画系論文集 2003, 165-172.

<sup>2</sup>西島衛治「自閉症児に配慮した教室空間の構  
造化に関する研究」日本建築学会九州支  
部, 2007, 3, 281-284.

<sup>3</sup>中央教育審議会(2005) 特別支援教育を推進  
するための制度のあり方について(答申)

<sup>4</sup>学校教育法第 73 条

<sup>5</sup>花熊暁(2005) 特別支援教育の体制作りを目  
指して 1. 日本 LD 学会会報、52.

<sup>6</sup>門 眞一郎「自閉症の人の理解(認知)の特  
徴(視覚的構造化の理論的根拠)」『自閉症  
は自閉症』2002 年, 4-5.



## 質問紙法アンケート

### (1) 生徒用

生徒の皆さんへ

#### 校内サインに関するアンケート

1. 教室表示が変わってきていることに気づいていますか。いずれかに○をつけて下さい。

ア：<sup>き</sup>気がついていた。

イ：<sup>き</sup>気がついていなかった。

2. 今の表示板についてどう思いますか。いずれかに○をつけて下さい。

ア：<sup>まえ ひょうじばん</sup>前の表示板より <sup>おも</sup>よいと思う。

イ：<sup>まえ ひょうじばん</sup>前の表示板と <sup>か</sup>変わらないと思う。

ウ：<sup>まえ ひょうじばん</sup>前の表示板のほうが <sup>おも</sup>よいと思う。

3. 「2.」で「<sup>まえ ひょうじばん</sup>ア：前の表示板より <sup>おも</sup>よいと思う。」と答えた方に質問です。

どのようなところがよいと思いますか。

4. 特に気に入った教室の表示板があったら○をつけて下さい。(○は何個つけても構いません)

ア：調理室

カ：音楽室

イ：美術室

キ：言語聴能室

ウ：体育館

ク：保健室

エ：木工室

ケ：視聴覚室

オ：情報処理室

3. 「2.」で「<sup>まえ ひょうじばん</sup>ウ：前の表示板のほうが <sup>おも</sup>よいと思う。」と答えた方に質問です。

どのようなところが前の表示板の方がよいと思いますか。

## (2) 教職員用

教職員の皆様へ

サイン（デザイン化された案内板）に関するアンケートのお願い

特別支援教育が始まり、広がりを見せる中で教室表示に関しては、わかりやすいことは勿論のこと現場に寄り添った独自の工夫が今後更に必要となります。つきましては、校内環境を楽しく明るく分かりやすくさせていくため、下記のアンケートにお答えいただきますよう、ご協力をお願いします。

1. 設置されているサインについてどう思われますか。いずれかに○をつけてください。

ア：よいと思う。

イ：以前の文字表示と変わらないと思う。

ウ：以前の文字表示のほうがよいと思う。

2. 1で選んだ項目の理由をお聞かせ下さい。

3. 特に気に入ったサインはありましたら○をつけて下さい。（○は何個つけても構いません）

ア：調理室 イ：美術室 ウ：体育館 エ：木工室 オ：情報処理室

カ：音楽室 キ：言語聴能室 ク：保健室 ケ：視聴覚室

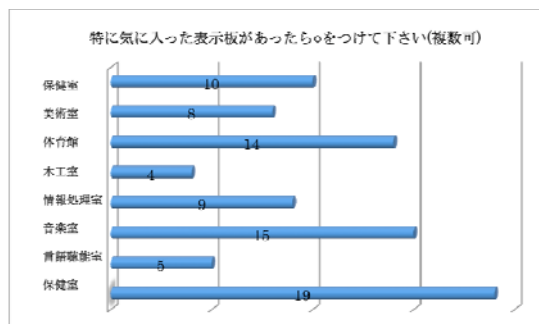
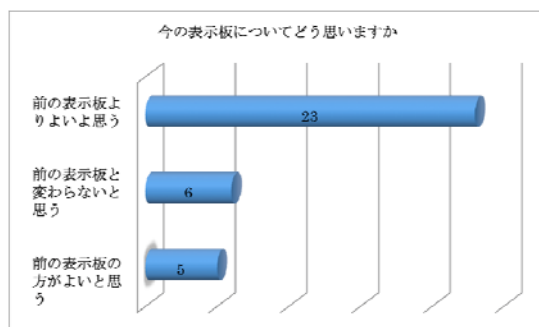
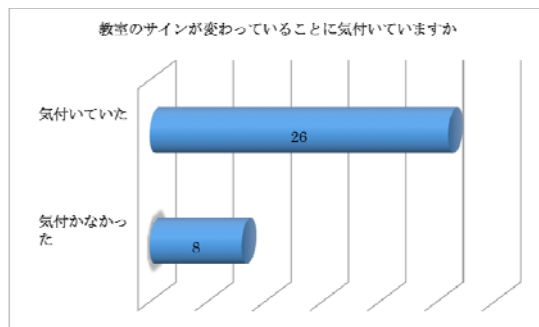
4 その他何かご意見がございましたらご自由にご記入下さい。

5 校内に設置されたサインを見て、1～5の当てはまる箇所に○を記入して下さい。その際あまり考え込まずに素早く記入して下さい。

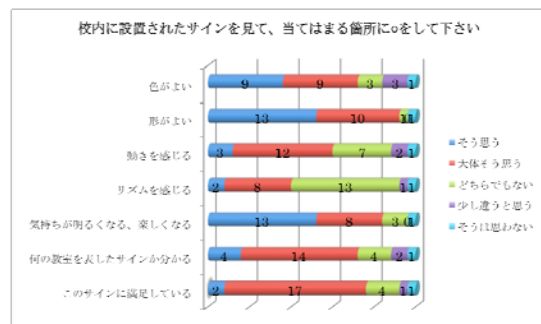
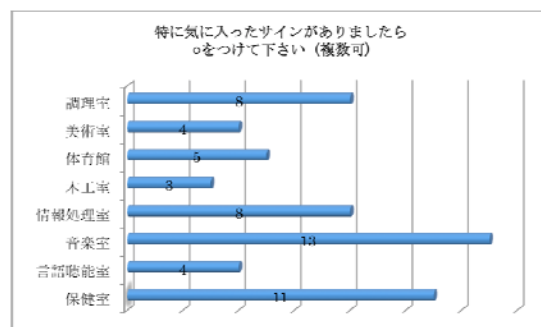
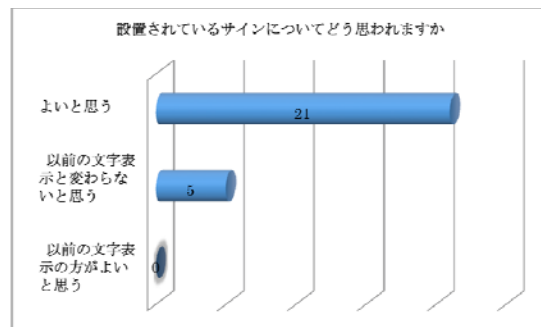
	1 そう思う	2 大体そう思う	3 どちらでもない	4 少し違うと思う	5 そうは思わない
色がよい					
形がよい					
動きを感じる					
リズムを感じる					
気持ちが明るくなる					
楽しくなる					
分かりやすい					
何の教室を表したサインか分かる					
このサインに満足している					

## サインアンケート結果

### (1) 生徒



### (2) 教職員



(1) Cheer Sign と非 Cheer Sign の比較

特徴 (C : 非 C )	理由
<p>① 丸み</p> <div data-bbox="279 465 632 633">  </div> <p>保健室 (24 : 10)</p>	<p>Cheer Sign)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 丸の方がインパクトがある</li> <li>・ ボールみたいでかわいいから</li> <li>・ 円の方が優しいから</li> <li>・ 丸の方が温かい感じがする</li> <li>・ 角がない方が良い</li> <li>・ 丸の方が保健室にぴったりだから</li> </ul> <p>非 Cheer Sign)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 四角が好きだから</li> </ul>
<p>② 色</p> <div data-bbox="279 943 632 1120">  </div> <p>美術室 (18 : 16)</p> <p>調理室 (25 : 9)</p>	<p>美術室</p> <p>Cheer Sign)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明るい色がいい</li> <li>・ オレンジ色の方が見やすい</li> <li>・ // 明るいイメージがある</li> <li>・ 青だと暗い色使いになりそうだから</li> <li>・ オレンジ色がかわいいから</li> </ul> <p>非 Cheer Sign)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (濃紺色の方が) オレンジより見やすいから</li> <li>・ 色が青くて引き締まっていたよい</li> </ul> <p>調理室</p> <p>Cheer Sign)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オレンジ色の方が優しくてよい</li> <li>・ // 温かさを感じられる</li> <li>・ // 調理室の色のイメージに合っている</li> <li>・ // 明るいから</li> <li>・ // 家庭っぽい。紺色は暗くて寂しい感じがする</li> </ul> <p>非 Cheer Sign)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オレンジ色より見やすいから</li> </ul>

<p>③ 効果線</p>  <p>言語聴能室 (28 : 6)</p> <p>体育館 (28 : 6)</p>	<p><b>言語聴能室</b></p> <p>Cheer Sign)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 光っているように見えるから</li> <li>・ 小さいダイヤがかわいいから</li> <li>・ キラキラがキレイだから</li> <li>・ キラキラしている方が分かりやすい</li> <li>・ ミラーボール1つだと寂しいのでキラキラがあった方がよい</li> </ul> <p>非 Cheer Sign)</p> <p>理由なし</p> <p><b>体育館</b></p> <p>Cheer Sign)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投げているように見えるから</li> <li>・ 運動する場所だと認識しやすい</li> <li>・ 動きがあるように見えるから</li> <li>・ ゴールに入りそうな感じがよい</li> <li>・ バスケットボールっぽく見える</li> </ul> <p>非 Cheer Sign)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性を感じられない</li> </ul>
<p>④ 顔</p>  <p>トイレ (27 : 7)</p> <p>共通教室 (30 : 4)</p>	<p><b>トイレ</b></p> <p>Cheer Sign)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 顔がある方がかわいい</li> <li>・ 顔が好きだから</li> <li>・ 顔がついていて分かりやすい</li> <li>・ おもしろい</li> </ul> <p>非 Cheer Sign)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 顔の必要性を感じられない</li> </ul> <p><b>共通教室</b></p> <p>Cheer Sign)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダブルの笑顔が素敵だから</li> <li>・ 先生と生徒が話している</li> </ul> <p>非 Cheer Sign)</p>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 顔の必要性を感じられない</li></ul>
--	--

## cheer sign とは

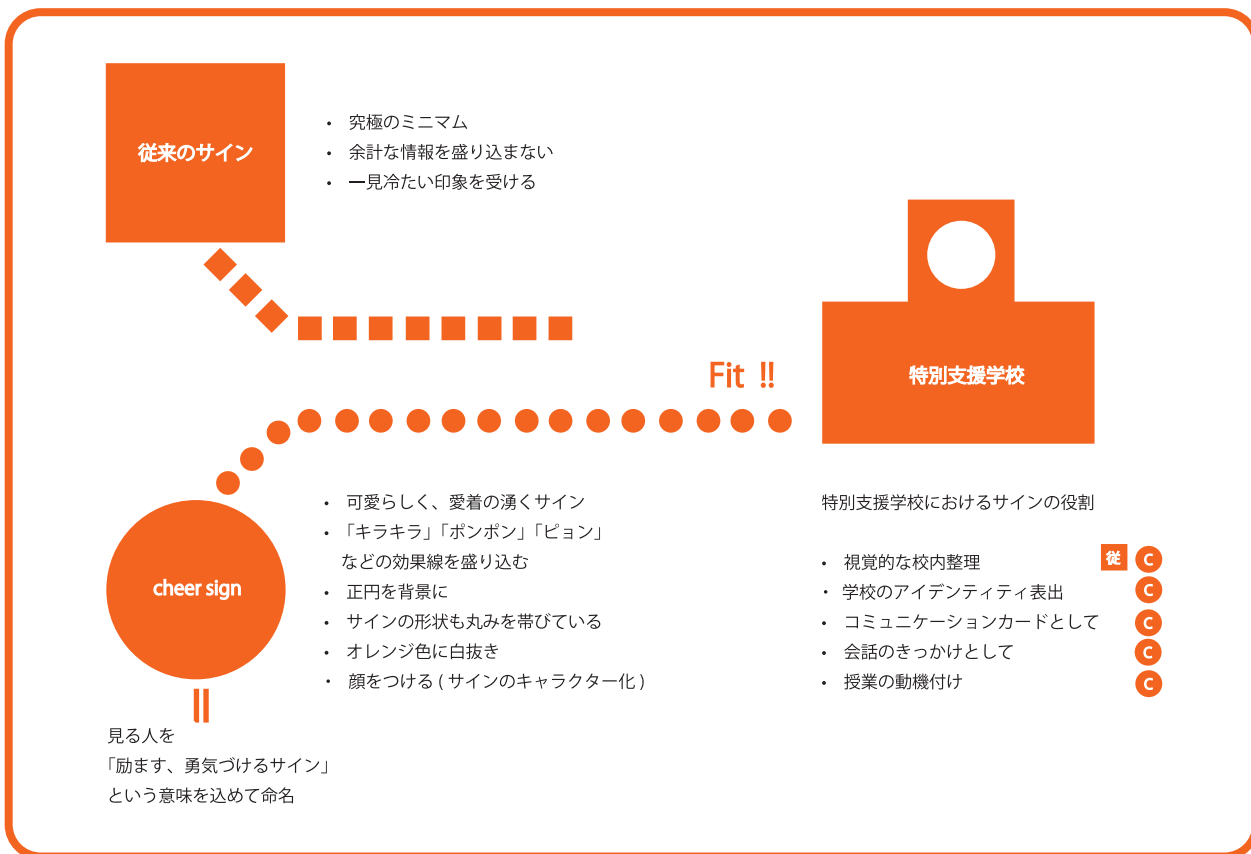
視認性を確保するため余分な情報を盛り込まない、

「究極のミニマム」とも言うことが出来る冷たい印象を受ける従来のサインとは異なり、

効果線や表情が盛り込まれ、可愛らしく愛着が湧くサイン。

サインを介することで、新たなコミュニケーションの可能性を高め、

環境を明るく楽しいものにする、見る側に寄り添い元気づけるサイン。



## ココが cheer sign !

共通教室



顔がついたサイン  
ユーモアで視認性を確保  
丸みの多用  
矢印がリズムカル

保健室



十字マークもハートも丸く

言語聴能室



キラキラ（効果線）の多用

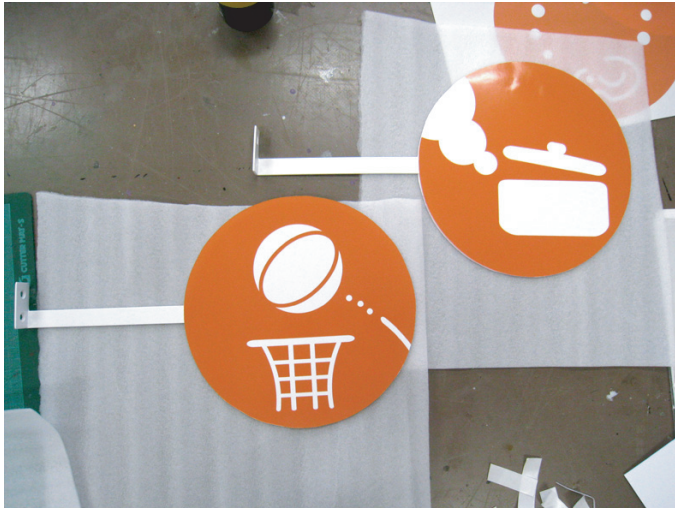


## 教室サインの仮設置





## 教室サインの第一期設置



## 第一期設置の9教室サインデザイン



音楽室



体育館



視聴覚室



美術室



調理室



情報処理室



言語聴能室



保健室



木工室

## 第二期設置の9教室サインデザイン



食堂



合同教室



共通教室



農業実習室



放送室



男子トイレ



水訓練室



理科室



女子トイレ